

硬筆書写技能検定

〔試験時間〕

90分

「第1問速書き」1分（黙読）+ 4分

「第2問以降」85分

〔注意事項〕

1. 受験する級の問題冊子であるか確認してください。
2. 試験監督の指示があるまで問題冊子を開かないでください。
3. 問題内容に関する質問は一切受けつけません。
4. 携帯電話等の電子機器は必ず電源を切り、絶対に使用しないでください。
5. 不正行為をした場合は、答案は無効となります。
6. 受験票と受験に必要な用具以外はすべてしまってください。
7. 下敷きは**無地のもの**を使用してください。
8. 鉛筆で字を書いた上からなぞり書きはできません。二度書きやレタリングはできません。
9. 修正液・修正テープ・消せるボールペンは使用できません。

〔試験の流れ〕

- ・第1問「速書き」は、1分間で筆記具をもたずに黙読し、その後4分間で解答します。解答には必ずボールペンを使用してください。
- ・解答終了後は第1問解答用紙を提出し、再開の指示があるまでは待機してください。

〔理論問題の筆記用具〕

- ・理論問題の解答時に使用する筆記具は自由となっています。※鉛筆・万年筆・ボールペン・サインペン・つけペンが使用できます。

【受験地番号・受験番号の記入】

受験地番号・受験番号は、この表紙・第1問解答用紙・第5問解答用紙・第6問解答用紙・理論解答用紙の計5箇所、**受験票に記載されている番号を正確に記入**してください。

【準登録（片方合格）の手続き】

準登録（片方合格）の方は、該当科目を必ず白紙で提出し、理論免除の方は理論問題解答用紙に受験地番号・受験番号のみ記入し、解答せずに白紙で提出してください。

【不許複製】

この試験問題の複製（コピー）を禁じます。また、この試験問題およびその内容を当協会の許可なく他に伝える行為や、漏えい（インターネット上に掲載することを含みます）することを固く禁じます。

【受験地番号・受験番号記入欄】

受験地番号	受験番号
.....	K 0 1

受験地番号は左つめに記入すること。

第1問 つぎのわく内の文を、所定時間内で下に書きなさい。
(必ず**ボールペン**を使用すること。) 定規やものさしは使用できません。鉛筆で補助線や下書きをしてはいけません。

所定時間 4分

等々力溪谷を訪れた。せせらぎを樹木が覆い、気温はちまたより5度ほど低い。遊歩道を行くと、修験者のための細かい滝が涼やかな放物線を描いていた。修行の足らぬ身は、これに打たれたら脳天から生き返ると雑念がよぎる。各地で梅雨が明け、本物の夏が来た。みずみずしい野菜の助けを借りて体を内から冷す。そうめんばかりではだめだ。

文部科学省後援 書写技能審査
令和○年度第○回
硬筆書写技能検定
令和○年○月○日(日)実施

実技問題

硬筆書写技能検定 第1問解答用紙

受験地番号			

受験地番号は左づめに記入すること。

受験番号			
K	0	1	

第1問
点

第2問

つぎのわく内の五つの語句（10字）を、楷書・行書・草書の三体で書きなさい。
（つけペン・万年筆またはボールペン・サインペンのいずれかを使用すること。）
定規やものさしは使用できません。鉛筆で補助線や下書きをしてはいけません。

楷書

--

行書

--

草書

--

趣味
葉書
手紙
洗心
行事

第 2 問
点

第3問

つぎのわく内の文を、左に書きなさい（漢字は行書で書くこと。平仮名は連綿で書いてもよい）。
〈つけペン・万年筆またはボールペン・サインペンのいずれかを使用すること。〉
定規やものさしは使用できません。鉛筆で補助線や下書きをしてはいけません。

--	--	--	--	--	--

今の季節、夏のスピードは速い。
初々しかった若葉はたちまち茂りを濃くし、緑となって湧き上がる。
田んぼの稲も負けてはいない。

第 3 問
点

第4問

つぎのわく内の文を、横書きで下に書きなさい（漢字は楷書で書くこと。数字やローマ字は、仮名や漢字に似合うものであればよい。速書きをねらうものではありません）。〈つけペン・万年筆またはボールペン・サインペンのいずれかを使用すること。〉定規やものさしは使用できません。鉛筆で補助線や下書きをしてはいけない。

Bangladesh) は、インドの東隣にある共和国で、国土面積は14.4万km²、北海道の約2倍であって、大部分が沖積平野からなるデルタ地帯である。

第4問
点

第5問

つぎの★印の……で囲んだわく内の a・b・c のうち、いずれか一つを選んで、別紙（第5問解答用紙）に縦書きで、自分の得意とする形（書体・書きぶり・布置など）で書きなさい。鉛筆で補助線や下書きをしてはいけない。なお、その場合、自由にわくの大きさや縦横の割合などを考え、鉛筆で外わくを囲った体裁のよい形に仕上げなさい。（つけペン・万年筆またはボールペン・サインペン・油性または顔料系のマーカーのいずれかを使用すること。）

a

風まぜに雪は降りつつしかすがに
霞たなびき春は来にけり

（新古今和歌集）

b

ちまたを超えて木の葉は飛び
木立の上に鳥は鳴く
山のあなたはどこかに
私の遠いふるさとはあるに違いない

（ヘッセ）

c

雪	散	因	和	氣
水	開	得	暖	光
春	銷	不	得	處
唯	有	鬢	邊	霜

c の読み
雪散じて和氣に因り
氷開けて暖光を得
春の銷さんとして得ざる處は
唯だ鬢辺の霜有るのみ

（白居易）

a は、漢字を仮名に、仮名を漢字にして書いてもよく、また、適当に変体仮名をまぜて書いてもよい。和歌は現代表記によるものである。

b の漢字・仮名は、課題のとおりを書くこと。

c の漢字は、書写体にかえてもよい。

なお、作品に雅印を押ししたり、自分の名まえを書いたりしてはいけない。

文部科学省後援書写技能審査
令和○年度第○回
硬筆書写技能検定
令和○年○月○日（日）実施

受験地番号			

受験地番号は左づめに記入すること。

受験番号			
K	0	1	

硬筆書写技能検定 第5問解答用紙

第5問

点


第6問


つぎのわく内の掲示文を、別紙（第6問解答用紙）を縦長にして、縦書きで体裁よく書きなさい。

〈必ず油性または顔料系のマーカーを使用すること。〉

鉛筆で下書きをしてはいけない。定規やものさしで書いた線は消して出すこと。

主	参	講	場	日	
催	加	師	所	時	楽
	費				し
桂	無	森	中	六	く
部	料	本	央	月	学
市		博	公	十	ぶ
文		光	民	六	人
化		先	館	日	権
推		生		(日)	講
進			午		座
協			後		
会			七		
			時		
			から		
			九		
			時		
			まで		



※ の部分には、受験番号および点数の記入欄があります。

文部科学省後援書写技能審査
令和〇年度第〇回
硬筆書写技能検定
令和〇年〇月〇日（日）実施

受験地番号				

受験番号			
K	0	1	

第 6 問
点

硬筆書写技能検定 第 6 問解答用紙

受験地番号は左づめに記入すること。

第7問

Ⓐ 当用漢字で新しい字体が採用されたため、もとの字体は旧字体といわれるようになりました。つぎの漢字を旧字体で、下の□の中に書き入れなさい。

縄

尽

読

属

虫

Ⓑ 書の上では辞書にない形の漢字をよく書きますが、これを書写体といっています。つぎの漢字を書写体で、下の□の中に書き入れなさい。(下の例を参照。)

慮

数

顧

光

縁

所

書写体例

第8問

Ⓐ つぎの草書で書かれた漢字を、楷書で下の□に書き入れなさい。

教

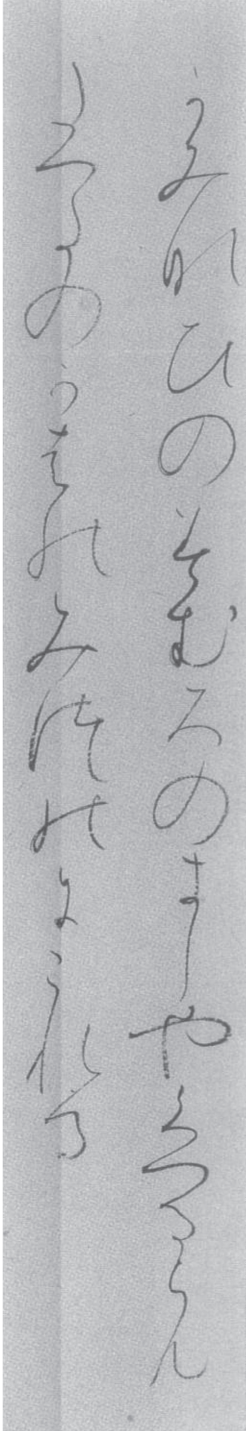
取

然

空

惟

Ⓑ つぎの仮名について、全部の字を仮名は平仮名で、漢字は楷書で外側に書き改めなさい。(粘葉本和漢朗詠集)



第9問

A

つぎに書かれている漢字の字形について、初歩的段階の人を指導するつもりで添削しなさい。(添削の方法は上の字の整っていない箇所矢印をつけ、修正した形の字を下の□の中に書き入れること。例を参照。)

白

□

志

□

全

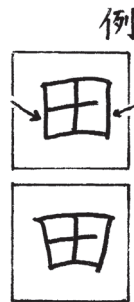
□

和

□

長

□



B

つぎのアからオの筆者(伝承を含む)に関係のある作品名の番号を□の中に書き入れなさい。

ア 欧陽詢

□

イ 嵯峨天皇

□

ウ 虞世南

□

エ 智永

□

オ 空海

□

1 真草千字文

5 風信帖

2 化度寺碑

6 書譜

3 鄭文公下碑

7 枯樹賦

4 光定戒牒

8 孔子廟堂碑

裏面に第10問があります。

第 9 問
点

第10問

A

つぎに書かれた文の漢字について、常用漢字の字体から見て誤りまたは不適切な字があったら、その右に正しく書き改めなさい。全文を書き改めてはいけません。

天智天皇は、百人一首の巻頭にある歌で知られ、近江
神宮「競技かるたの聖地」としても名高い。近江勸学館
では、競技かるたの全国大会が開かれ、愛好家が集う。

B

つぎの和歌を歴史的仮名遣いの上から見て、正しくない箇所だけを、その横に正しく書き改めなさい。全文を書き改めてはいけません。

ゆうずくよしお満ちくらし難波江のあしの若葉を越ゆるしらなみ こえはして雲じにむせぶほととぎす涙やそそぐ宵のむらさめ
--

A